

97.4.5 日本教育新聞

障害児に優しい学校

神戸市 全小・中校にエレベーター

神戸市教委は平成九年度から、障害児の学習環境を改善することや、災害時での地域防災拠点として障害者の受け入れなどの目的のため、市立の全小・中学校二百五十一校にエレベーター

を設置する方針を決めた。当面は十年間で約百校に設置する予定で、来年度は西須磨小学校、中央小学校、長田区統合小学校（志里池小学校、神楽小学校の統合

校）の三校に設置する。同市教委はこれまでも、市立小・中学校にスロープ、手すり、障害用トイレを整備するなど、障害児対策に力を入れてきた。しかし、平成八年度で小

学校五十六校に七十六人、中学校八校に十一人の合計八十七人の肢体不自由児が普通校に就学するなど、障害児の普通校への就学ケースが増加するなど上下移動の対策に迫られていた。

このため、現在は全盲・養護学校六校と市立鷹取兵庫高校にしか設置されていないエレベーターを普通校にも計画的に整備、最終的に全校に整備することにした。

障害児に優しい学習環境づくりのほか、市教委は「学

校を生涯学習の拠点として位置づけるための機能整備」（学校施設課）も設置理由にあげている。